

学校名	新座市立第六中学校
実施日	令和5年1月16日

<記入の仕方>

○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「独自」

No.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、生徒の社会的・職業的自立に必要な能力など、自身に関わる課題として認知させるシティズンシップ教育の推進に努めている。 【常に前進】	B	今年度、「Dqworld」というゲーム感覚で、シチズンシップ教育について学べる取組に参加したが中途半端な取組となってしまった。 今後は、学校の教育活動をととして、生徒が教師に怒られるから行動を変えるのではなく、生徒が自ら考え、判断して、正しい行動ができるような取組や働きかけを行っていく。	A	今年度、「Dqworld」というゲーム感覚で、シチズンシップ教育について学べる取組に参加したことは、取組としては良いものであるので評価できる。生徒が自ら判断し、正しい行動ができるよう生徒同士でディスカッションするとかイメージをもたせる取組を工夫していただくと良い。教職員で校内研修を行い、統一した考え方をしたい。
2	学校は、生徒一人一人がかけがえのない存在であることを理解させ、自分を大切にしながら、よりよい生き方を求めて生活するよう、教育相談体制を整えて、速やかな対応を行っている。 【温かい人間関係】	B	取り扱う事案が複雑で、改善が進まない事例も多く、対応に苦慮しているものの、教育相談の専門家であるスクールカウンセラー、社会福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカー、さわやか相談員、養護教諭及び外部機関との連携が円滑に進み、見通しをもって相談活動ができるようになっている。	B	家庭で悩みを相談することが難しい生徒に外部の専門家に話をし、アドバイスをもらうことは、心の拠り所となり、前向きな気持ちをもつきっかけになることと思われる。 今後もスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、さわやか相談員、養護教諭及び外部機関との連携を円滑に図り、相談しやすい環境を続けていきたい。
3	学校は、清掃活動や掲示教育をととして、学ぶ意欲がわくきれいな教室環境を整備している。 【美しい環境】	B	大部分の生徒は、清掃活動に真面目に取り組んでいるが、本校が掲げている「無言清掃」までは至っていないのが現状である。引き続き改善に努めたい。 日頃、美しい環境を整えようとして、職員玄関や正門ロータリーなど整備されている。 校長室や玄関の掲示物も整備されている。各階の掲示物も季節感のあるものとし、計画的な掲示教育を推進していく。	A	学校内外とも以前に比べ、きれいに整備されている。花壇の花も季節の花などが植えられ、雰囲気明るくなった。 教育活動は「美しい環境」からスタートする。美しく整った環境で気持ちよく学べば、生徒たちの意欲の向上につながるはず。ぜひ生徒自身が前向きにがんばって欲しい。 教室の掲示や清掃活動にも、引き続き力を入れて指導していただきたい。継続して「美しい環境」の整備を願いたい。

評価項目「組織運営」

No.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は、校務分掌や主任制を適切に機能させ、組織的な運営・責任体制を整備するとともに、働き方改革に取り組んでいる。	B	校務分掌以前に、現行の制度だと、退勤時間に帰れない。教員の人数が足りていない。そこを改善しないと働き方改革も進んでいかないという意見が多い。校務のスリム化を今後具体策として提案する。	B	校長の経営方針に基づき、学年・学級経営が行われており、学校全体の掲示物、教室経営、学校便りからその姿勢を感じ取ることができる。働き方改革については、現実問題として、人員が不足しており、仕事量が多く、偏りもあるようなので校務の見直しを進め、今後の働き方改革に期待したい。
5	学校は、学校経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、改善計画を考え学校経営を行っている。	B	すべてを改善していくのは、難しいので、優先順位をつけて、取り組んでいきたい。教職員からのアイデアを生かしてボトムアップで進めていくことが重要である。	B	保護者や地域の声を聴きながら各行事に丁寧に取り組んでいる。学力向上を目標に、各教科指導においても熱心であり、PDCAサイクルの機能を使い、学校経営に努めており、評価に値する。定期的に計画を見直し、確認を怠らず、継続的な改善に努めていただきたい。
6	学校は、事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	火事・地震による避難訓練だけでなく、不審者対応の避難訓練を今後実施していくことが必要であるという意見があがった。訓練回数は限られているため、ローテーションをして行っていく。R5は実施予定である。	B	危機管理マニュアルを作成し、情報を迅速に伝える努力をしていると思う。 スクールメールによる不審者情報も学校・保護者・生徒間で上手く活用し、共有していけると良い。 定期的に地域防犯連絡会議に出席して、意思疎通を図っていることから、地域から学校への信頼や期待も高まっている。

評価項目「学力向上」

No.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、指導と評価の一体化を重視した授業を展開している。	B	客観的な評価について、教職員が校内研修等でさらに理解を深めて、指導と評価の一体化した授業を展開できるようにしたい。校内研修との連携を図る。	A	「指導と評価の一体化」への意識をさらに高めたい。生徒の理解が不十分であった点を次の授業で改善できるような授業改善の意識を高めていただきたい。生徒の理解度及び理解力の差が大きく、学力差に応じた個への支援が必要である。落ち着いた環境で集中できるよう整えていただきたい。
8	学校は、各教科の指導において「見方・考え方」を軸とした授業を展開し、資質・能力の三つの柱の育成に努めている。	B	知識及び技能を基礎として、課題の解決を図るために必要な思考力・判断力・表現力を身に付けさせることに力を入れている。教科特有の見方・考え方を高めていきたい。	A	各教科の授業を参観したところ、指導している側の工夫を感じとることができた。また生徒が積極的に参加している授業が多く見られ、やらされている感ではなく、楽しく学んでいる姿が見受けられた。 全教職員が継続的に授業研究に積極的に取り組み、魅力ある授業を目指している点は評価できる。
9	学校は、学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	教育委員会が一年に一度訪問して、授業を見て指導をいただいている。指導いただいた内容を普段の授業でも実践できるようにしたい。3年間で生徒をどのように育てていくのかというビジョンが必要である。今一度、年度当初に確認し、学力向上を目指す。	B	文部科学省や県・市の方針に従って、学習指導要領、県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、充実した授業活動を展開している点は、評価できる。 学力向上を目指して、引き続き努力していただきたい。
10	学校は、カリキュラム・マネジメントを推進し、society5.0を自在に生きる力を身に付けた児童生徒の育成に努めている。	B	カリキュラムマネジメントについては、年間指導計画等をPDCAサイクルで常に見直し、改善していく必要がある。 1人1台のタブレット端末の使い方が気になる。という意見があがった。有効な使い方について、繰り返し研修していく。	B	カリキュラムマネジメントについては、推進に努めており、評価できる。 1人1台のタブレット端末の使い方については、本来の使用目的で使われているか、その都度有効な使い方を検討する必要がある。研修をして生徒の育成に役立てていただきたい。

評価項目「豊かな心の育成」

No.2

No.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつしたり、「です、ます」をつけるなど場に応じた言葉遣いを実践したりできるよう指導している。	B	あいさつについては、コロナの影響もあって以前に比べてできなくなってしまった徐々に良くなっているので、引き続きあいさつについて指導していくことが必要である。授業中の発表の仕方にも課題がある。語尾までしっかりと知らせる指導を徹底する。	A	来校した際、生徒からあいさつをしてくれることが多い。全体的に元気が良く、また声掛けをしたときも受け答えがしっかりしているように思う。 校長先生が校門であいさつをしているので他の先生も生徒の見本となるよう努めていただきたい。 あいさつの大切さを考えさせたり、あいさつの良さを体験させたりすることで、教職員、家庭、地域が一体となって気持ちよくあいさつする環境を作っていきたい。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	B	意地悪な行為はなかなかなくなるが、生活アンケートをしっかりと行い、いじめ案件の早期発見、早期解決を行っている。教職員がしっかりと生徒を観察し、共通理解・共通行動をしていくことを継続していく。	A	問題を自分事として皆で話し合える。また「自分はこう思う。」という自身の意見を言い合えるような環境作りができるよう今後も願いたい。 意地悪な行為はなかなかなくなるが、組織的にいじめの撲滅を図っている姿勢は評価できる。いじめの早期発見、早期解決をすすめ、教職員がしっかりと生徒を観察していただきたい。
13	学校は、教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。	B	生徒への言葉遣い等、気を付けて接している。教職員がお手本となれるようにしたい。「率先垂範」を合言葉に。	B	来校時に拝見する生徒への接し方また来校者に対するあいさつ等、教職員の意識が高く、とても好印象である。 指導も大切だが、教職員が手本となれるよう努力して欲しい。校則について今の時代にあったものにしていく姿勢は評価したい。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	昼休みにボール等の貸出を行っているが、制服が汚れるので遊ばないという意見もあって、着替えのルールを見直していく。 体育の授業をとおして指導している。生涯を通じて、体育好きな生徒を育てたい。	B	生徒の体力低下が問題となっているので、身体を動かし、健全な生活が送れるよう環境を整え、指導していただきたい。それに伴うルールについて、見直しできることはどんどん変えていって欲しい。 日常生活において、体力の維持向上の大切さと必要性が生徒に伝わるよう指導をお願いしたい。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	B	美味しい給食が提供されている。今後放送で献立についてなど、積極的にアナウンスできるとさらに良い。	B	給食を試食させていただき、とても美味しく、また作業も手間をかけてくださっているとのこと。作ってくれる方がどのようにして自分たちの給食を用意してくださっているのか、見学や動画視聴することで、生徒たちに伝わるものがあるのではないかと感じた。これからも食育・健康教育を進めていただきたい。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	B	学校説明会を設けるなど、保護者への情報発信する場を増やして、積極的に発信していく。 六中生の通学の際の苦情が多い。一部の生徒が迷惑をかけている。他者配慮できない生徒を引き続き根気強く指導していく。	B	迷惑をかけてしまった生徒に対し、行動の注意だけでなく、なぜしていけないのかを本人が理解できるよう保護者と学校で共有を行いながら指導していただきたい。 保護者への情報発信を増やし、理解していただけるよう一層開かれた学校づくりを進めて欲しい。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	校長ブログで学校での生徒の活動がよく紹介されているという意見があがった。 HPの更新が定期的になされている。	A	今年度より校長ブログがアップされるようになり、学校の様子を見ることができるので楽しみにしている。ホームページも定期的に更新されていて評価したい。 六中だより、学年・学級だより、保健、給食だより、図書だよりさわやか相談室だよりなどのお手紙が定期的に配付され、情報提供されている点も評価できる。
18	学校は、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進により、社会に開かれた教育課程の編成・実施を行っている。	B	地域のボランティアの活動が少しずつ増えてきている。さらに活動を広げていきたい。	A	ボランティア活動が徐々に増えているようなので、できる限り生徒が参加する機会を増やして欲しい。そこで学べるものも多くあると思う。学校が生徒・保護者・地域に声掛けするよう心がけて欲しい。 地域の防犯パトロールやあいさつ運動などを中心として、学校・家庭・地域が連携・協働し、コミュニティ・スクールとしての機能を十分に備えた学校へと姿を変えてきているので、評価したい。